

2010 年度春学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜・時限・教室 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 の 文 化 と 社 会 *	日本の文化と社会 A	戸田 孝子 (とだ たかこ)	木・2 S202	この授業は、「日本の文化や社会」について、留学生が、日本語で発表したり、討論したりする能力を高めていくことを目標としています。特に、日本人の思考様式について、伝統的な東洋と西洋のものの方・考え方が、現代社会でどのように交錯しているか、具体的なテーマを広い視点から考察してみます。留学生自身の自由なテーマ設定による発表・討論の時間も用意しています。	【内容】授業は、二つの部分に分かれています。一つは、留学生がそれぞれ、自由に、自分の関心のあるテーマについて短い意見をスピーチしたり、少し詳しく調べた内容をパワーポイントを使って発表したりする部分、もうひとつは、共通のテキストで、文献を解釈し、理解したテーマについて、グループに分かれ意見を述べ合い、その結果を、クラス全体に報告する部分です。テキストの一つは、やや抽象的な解釈に必要な日本語のもの、もうひとつは、英語からの翻訳を通して、日本語表現を学ぶための教材です。 【テキスト】今道友信『東西の哲学』TBSブリタニカ、1981年 Richard E. Nisbett. The Geography of Thought. Free Press. New York, 2003. の抜粋 【評価方法】出席、授業演習の記録、学期末レポートによる総合的評価。
	日本の文化と社会 C	佐藤正光 (さとう まさみつ)	木・2 S101	日本の文化や社会についての疑問や理解しがたい点を。受講生自身の問題意識を出発点として、受講者全員で考察していく。それにより外国人の視点と日本人の考え方とから、日本の文化や社会を相対化しながら理解する。	【内容】受講生が自分の視点から日本の文化や社会についてテーマを決め、自分で調べて発表してもらい、それに基づいて全員で討論して理解を深めてゆく。発表では、自分で作成したレジュメとパワーポイントを用意してもらう。レジュメについては、事前に私が添削を行い、日本語の文章力も向上するように心がける。パワーポイントでは、映像資料も利用して発表内容を要領よく日本語で紹介できるように工夫する。私からは日本人の一般的な考え方や、自分自身の考えを紹介する。たとえば、「歌舞伎の世界」、「日本人の野球好きについて」、「日本のアニメの魅力」、「日本語の特徴」など、テーマは限定しない。【テキスト】各自の発表レジュメを用いる。レジュメは事前に発表者が人数分を用意する。【評価方法】受講生の発表内容と、討論での発言などを総合して評価する。出席を重視し、評価にも反映させる。
	日本の文化と社会 E	丑野 毅 (うしの つよし)	月・1 N101		【内容】人と他の動物を区別する大きな要素として道具の使用があげられる。道具はさまざまな形と機能を持つが、それ自身使用者の必要に応じて形や機能ばかりでなく、それを構成している素材も変化を遂げてゆく。先史時代という文化と社会の中で、人々はどうのような道具を作り、どのように使用して生活を営んでいたのか。文化や社会が成熟してゆく過程を道具の発達から読みとる。 【テキスト】 【評価方法】

	日本の文化と社会 G	石井 健 (いいたけし)	木・1 書実II	日本の伝統的な芸術である書道や日本の文字文化について、毛筆や硬筆の実技を通して考える。	【内容】はじめに、ボールペンやシャープペンシル、鉛筆などを使って、ひらがな、カタカナ、漢字の正しい字形を身につける。その後、署名、はがき、封書、のし袋など日本の日常生活の中で用いられる実用書について、実技を中心に学んでいく。後半は、毛筆による書道作品の制作を行い、完成した作品を表装し、可能であれば学内のアートギャラリーなどを利用して展覧会を行う予定である。 【テキスト】とくに用いない。【評価方法】平常点 50% 授業時の提出物 50%
--	---------------	-----------------	-------------	---	--

\* 「日本の文化と社会 B・D・F・H」は、秋学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」からも見られます。

日 本 研 究 科 目 **	日本研究 A (社会)	高崎 恵 (たかさき めぐみ)	水・1 N207	日本における宗教伝統の諸相を学び、宗教と現代社会の関わりを考えます。	【内容】講義では日本でみられる主な宗教伝統とその歴史的展開を概説し、また、現代日本社会における宗教的な事象を検討することを通じて、日本における宗教のあり方を紹介します。受講生の皆さんには、現代日本社会と宗教にかかわるテーマを各自の関心に従って選定して、発表をしていただき、学期末には、それに基づくレポートを作成していただく予定です。 【テキスト】とくに用いません。日本史を概観するための参考図書としては、高校の日本史教科書を推薦します。【評価方法】平常点 20%、発表 40%、レポート 40%
	日本研究演習 B (人文)	有澤知乃 (ありさわしの)	木・4 S407	日本研究では見落とされがちな地方の文化について考察し、現代社会における民俗文化の保存や活性化の意義について議論します。	【内容】本居宣長などの近世文人による民俗学の出発から、明治末期の柳田國男による民俗学の成立、1930年代における民俗学の確立を経て、戦後の民俗学の発展にいたるまでの大きな流れを学びます。都市と地方の概念の形成や、生活世界への関心についての歴史的、社会的背景について考え、さらに、民俗学の代表的な調査研究から、各地の風俗・衣食住・農耕・民間伝承・方言・村落社会などの事例を挙げて、その研究方法や研究意義について考察します。また、授業では、各自が選んだ土地の風習などについて発表をしてもらい、各地に見られる生活や文化の特徴について一緒に考えます。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点20%、発表20%、レポート60%

	日本研究 C (教育)	遠座 知恵 (えんざちえ)	火・2 S407	日本の教育の歴史について理解を深め、その特徴について考えていく。自国の教育とも比較してみたい。	<p>【内容】古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいく。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育に関しても他国の影響がとても大きい。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本ではどのような教育が行われてきたのかを紹介していく。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を使いながら授業を進めていきたい。</p> <p>【テキスト】とくに用いない。読みやすい参考文献を紹介したいと考えている。</p> <p>【評価方法】授業時の小レポートと学期末試験で評価を行う。</p>
	日本研究演習 D (芸術)	石井 健 (いしいけん)	月・2 ***書道 演習室	日本の伝統的な「紙」である「和紙」について理解を深め、「和紙」と日本文化とのかかわりについて学ぶ。	<p>【内容】日本の伝統的な「紙」である「和紙」の製法や歴史について概観した上で、和紙と日本文化、和紙と日本人の生活とのかかわりについて学んでいく。いくつかのトピックを選び、図版や映像・文献資料を使いながら理解を深めるようにし、学生の皆さんにも、各自テーマを決めて発表をしてもらいます。</p> <p>【テキスト】とくに用いない。必要に応じ資料を配布する。【成績評価】平常点 30% 発表 30% レポート 40%</p>

\*\* 「日本研究 B・D」「日本研究演習 A・C」は、秋学期に開講します。

\*\*\*書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟 4号館 2階 にあります。